北海道地域観光学会誌　第 11 巻第 1 号　2024 年

中島みゆきゆかりの地への聖地巡礼

Pilgrimage to the Place Associated with Miyuki Nakajima

伊藤 寛幸*
ITO, Hiroyuki
*北海商科大学

1970 年代から 2000 年代までの 4 世代にわたりシングルチャート 1 位に輝いた唯一の女性アーティスト中島みゆきをとりあげる。本稿では、中島みゆきゆかりの地：山形における“場・空間”を巡ることによって、中島みゆきの楽曲のなかに、地域固有のイメージとしての「物語性」を発見するきっかけとしたい。

キーワード：中島みゆき、聖地巡礼、コンテンツツーリズム

1.序論

著名人にゆかりのある土地を巡る旅は以前より存在していた。その対象範囲は、歌手、俳優、作家などのほか、広くタレントにいたるまで多岐にわたる。ファンと称されるいわゆる熱狂的な愛好家にとって、優れた作品にかかわりのある人物への憧憬として、そのゆかりの地を巡る行為は、手の届かない遠い存在でありながら、その距離を可能な限り縮めてみたいと願う振舞いであろう。最近では、各種媒体を通じたコンテンツツーリズムが注目を集めている。なかでも、芸能、芸術にかかわる作者ゆかりの地を訪れる行為は、聖地巡礼と称されて注目を集めている。芸能人、文化人のなかでも、歌手、俳優への憧れは特に強く、時として狂信的でもあり、著名人にゆかりのある土地はまさに「聖地」となりうる。

本稿では、コンテンツ産業全体の約 1 割を占め、他のコンテンツと比較して長い歴史を有する音楽コンテンツに注目する。なかでも、日本において、1970 年代、1980 年代、1990 年代、2000 年代と 4 つの世代にわたりシングルチャート 1 位に輝いた唯一の女性アーティスト中島みゆきをとりあげる（注 1）。中島みゆきのデビュー前の略歴に関しては、北海道、特に帯広のイメージが強く、学歴に関しても藤女子大学文学部国文学科卒業などにとどまり、情報はかなり限定的である。大串ほか（1987）においても、出生が札幌であり、その後、岩内、帯広に転居したことは取り上げられているが、中学 3 年の後半に母親の出身地でもある山形へ帯広から転居していた事実は語られていない。

関連研究には、増淵（2011）などがある。増淵（2011）は、中島みゆきの楽曲「南三条」、「店の名はライフ」、「ミルク 32」を取り上げ、ご当地としての札幌の街の変貌を論じている。楽曲における舞台とそのご当地の分析という点で、増淵（2011）は、中島みゆきに関連するコンテンツツーリズム研究の中核をなすものである。さらに、かなり詳細かつ多様な情報を開示している非公認のファンサイトなども存在するものの、居住期間が短いことなどから、中島みゆきとの関連で山形を取り上げた資料は極端に少ない。

こうした背景をうけて、本稿では、中島みゆきゆかりの地：山形における“場・空間”を巡り、

中島みゆきの楽曲のなかに、地域固有のイメージとしての「物語性」を発見するきっかけとすることを目的とする。

2.データと方法

2.1 中島みゆきの略歴およびゆかりの地（注 2）

中島みゆきのデビュー前の略歴に関する情報が少ないなか、中島みゆきが居住していたと推察されるゆかりの地を整理すると以下となる。

中島みゆきは、1952 年札幌に生まれる。父真一郎氏の勤務実態から、中島みゆきほか家族の居住地は以下と推察できる。父真一郎氏は、札幌医科大学、岩内協会病院にて勤務ののち帯広にて開業し、亡くなる 1975 年まで帯広に在住している。その間、中島みゆきは、1966 年秋以降の 4 か月間のみ、帯広から山形に居を移し、山形市立第六中学校に転校している。帯広に戻った中島みゆきは、地元帯広の北海道帯広柏葉高等学校、札幌の藤女子大学文学部国文学科へと進学している。プロデビューを果たした中島みゆきの居住地については、「高額納税者公示制度」データによると、札幌市北区、札幌市中央区となっている。その後、1984 年、家族とともに、東京都世田谷区代田に転居し現在にいたっている。以上をまとめると、居住地は年代順に、札幌、岩内、帯広、山形、帯広、札幌、世田谷となる。

2.2 ゆかりの地における“場・空間”の抽出

はじめに、ゆかりの地山形の概要を以下に示す（注 3）。

位置・地勢：東北 6 県のなかでは中央よりやや南に、山形県内では中央から南東よりの山形盆地に位置する山形県の県庁所在地である。山形市の市域東側にある奥羽山脈は、蔵王国定公園の指定地域が大半を占めている。馬見ヶ崎川の扇状地に市街地が発展し、山形五堰が地域の良好な景観を形成している。

歴史・文化・観光：山形市は、出羽山形藩主最上義光が築いた城下町を核として発展してきた。山形城跡、別名霞城公園の東側に寺町が位置しており、なかでも専称寺は、関白豊臣秀次の側室、最上義光の二女駒姫の菩提寺として有名な浄土真宗の寺院である。そのほか、市街地には、霞城公園（国の史跡に指定）、旧済生館本館（国の重要文化財に指定）、旧山形県庁などがある。市街地周辺にも、松尾芭蕉の「奥の細道」として有名な国の名勝史跡に指定されている山寺立石寺、いにしえの合戦の世を偲ばせる長谷堂城跡など、歴史的価値の高い史跡が数多く現存している。花笠まつり、日本一のいも煮会フェスティバルなどの多彩なイベントも開催されている。観光地としては、蔵王温泉、蔵王温泉スキー場、山寺などが特に有名である。

2.3 ゆかりの地：山形への調査実施概要（注 4）

本調査は 2024 年 1 月 12 日より 2024 年 1 月 13 日に実施した。石橋（1988）によれば、中島みゆきにとっての山形は、中学 3 年の秋に帯広より転居してきた母親の出身地である。石橋（1988）にしたがい、記事に掲載されている“場・空間”を巡った。具体的には、中島みゆきの母親の実家近くから、転校先の山形市立第六中学校までの通学路を巡った。

山形市立第六小学校（注 5）

山形市鉄砲町二丁目に位置する公立小学校である。学校敷地に隣接して中島みゆきの母親の実家がある。調査時点（2024 年）の校舎（写真 3）は 1996 年に改築完成したものである。調査時点（2024 年）で校舎が建っている場所（写真 3）は、1966 年当時はグランドであった。1966 年

当時の学校風景を知ることはできなかった。なお、1966 年当時の校舎は、昭和初期に竣工した「みちのくアールデコ」として高評価をえた建築物であった。第二次世界大戦敗戦後は、占領軍によって接収され 1947 年 3 月まで兵舎として利用されていたとされる。1966 年当時の学校風景を知ることはできないなか、国道 112 号（1966 年当時は国道 13 号線であった）側にある校門門柱（写真 4）が、残された遺構のひとつになろう。

山形市立第六中学校（注 6）

山形市南原町二丁目に位置する山形市立の公立中学校である。1966 年 9 月 3 日より高校受験直前まで中島みゆきが在籍していた中学校である。調査時点（2024 年）の校舎（写真 7）は 1984 年に改築完成したものである。調査時点（2024 年）で校舎が建っている場所（写真 7）は、1966 年当時はグランドであった。1966 年当時の校舎は 1953 年に完成した校舎であった。その後中島みゆきは、山形市立第六中学校より再び帯広へ戻ることとなる。

3.結果と考察

わずか 4 か月という短期間の転居ゆえに、デビュー前の中島みゆきが残した足跡を、当地に発見することは困難であった。しかし、転居した母親の実家の位置から山形市立第六中学校までの通学路を辿ってみた結果、わずか 800 メートル、10 分程度の道のりならが、中島みゆきは、何をみて、何を考え、何を感じて通学していたのであろうかなどの感傷に耽るとともに、この通学路で転居当時（1966 年）から変わらないものの発見に努めた。山形市立第六小学校の校舎の建替え、山形市立第六中学校の校舎の建替えなどにともなって、当時、中島みゆきがみた景色とは大きく変わってしまったことは想像するに難くない。ながい時間の経過のなか、転居当時（1966 年）から変わらないものは、おそらく登校時にのぞんでいたであろう千歳山と、その稜線に冠する春を待つ空ではなかったかと言い聞かせていったん旅を終えた。

4.結論

本稿では、中島みゆきゆかりの地：山形における“場・空間”を巡り、中島みゆきの楽曲のなかに、地域固有のイメージとしての「物語性」を発見するきっかけとすることが目的であった。わずか 4 か月という短期間の転居ゆえに、デビュー前の中島みゆきが残した足跡を、当地に発見することは困難であった。しかし、転居の多かった中島みゆきにとって山形はそのひとつにすぎないかもしれないが、中島みゆきの母親の出身地という点で、中島みゆき自身のルーツでもあり、ファミリーヒストリーを語るうえで欠かせない重要な土地のひとつである点に相違ない。したがって、中島みゆきを語るうえで、山形は聖地になりうるであろう。山形を訪れ、中島みゆきに関連する“場・空間”を巡ることによって、中島みゆきの楽曲のなかに、地域固有のイメージとしての「物語性」を発見するきっかけができた。

今回の巡礼をきっかけとして、中島みゆきの楽曲のなかに地域固有のイメージとしての「物語性」を発見することを残された課題としたい。

注

注 1）ヤマハミュージックコミュニケーションズ（2020）による。歌手「中島みゆき」の本名は「中島美雪」であるが、本稿ではプロ歌手デビュー前についても「中島みゆき」と記述す

る。

注 2）北海タイムス社（1960）、岩内古宇郡医師会史編集委員会（1978）、月刊財界さっぽろ編集部（1978）、月刊財界さっぽろ編集部（1979）、月刊財界さっぽろ編集部（1980）、月刊財界さっぽろ編集部（1981）、月刊財界さっぽろ編集部（1982）、週刊宝石編集部（1982）を参考に筆者が記述した。

注 3）山形と記して特にことわりが無い場合、本稿では山形市を指す。なお、内容は、山形市（2017 a）、山形市（2017 b）を参考に筆者が記述した。

注 4）筆者は、中島みゆきが帯広より転居してきた 1966 年当時より 1968 年頃まで、中島みゆきの母親の実家と同じ町内に居住していた。このことから、中島みゆきの母親の実家近くの当時の情景に関してはかなり詳細に記憶している。1966 年当時を知る者の一人として当時をふりかえる。

注 5）温井（2009）、山形市教育委員会（2020）、山形市観光協会（n.d.）を参考に筆者が記述した。

注 6）山形市教育委員会（2020）を参考に筆者が記述した。

【引用文献】

石橋英昭（1988）「舞台再訪」『朝日新聞』1988 年 6 月 19 日付朝刊、12 版、山形版、20 面.

岩内古宇郡医師会史編集委員会（1978）『岩内古宇郡医師会史』岩内古宇郡医師会.

大串夏身・見目誠・谷口孝男（1987）『中島みゆきの場所』青弓社.

月刊財界さっぽろ編集部（1978）「52 年度道内 29 税務署管内高額所得者総覧」、『財界さっぽろ』第 16 巻 6 号、さっぽろ百点.

月刊財界さっぽろ編集部（1979）「セールスマン必携 高額所得者番付 10,888 人」、『財界さっぽろ』第 17 巻 6 号、さっぽろ百点.

月刊財界さっぽろ編集部（1980）「6 月号付録 54 高額所得者番付」、『財界さっぽろ』第 18 巻 6 号、さっぽろ百点.

月刊財界さっぽろ編集部（1981）「6 月号付録 55 高額所得者番付 15,309 人」、『財界さっぽろ』第 19 巻 6 号、さっぽろ百点.

月刊財界さっぽろ編集部（1982）「6 月号付録 56 高額所得者番付 15,825 人」、『財界さっぽろ』第 20 巻 6 号、さっぽろ百点.

週刊宝石編集部（1982）「中島みゆき嬢の「2 億円豪邸」で囁かれる嫉妬と羨望」、『週刊宝石』1982 年 10 月 16・23 日号、pp.218-219、光文社.

温井亨（2009）「隙間をうめるデザイン」『東北芸術工科大学紀要』16、pp.36-43.

北海タイムス社（1960）『北海道名士録 昭和 35 年版』北海タイムス社.

増淵敏之（2011）『物語を旅するひとびとII』彩流社.

【引用サイト】

山形市（2017 a）「山形市都市計画マスタープラン」（http://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kakuka/machizukuri/toshiseisaku/sogo/gazoufile/toshikei/toshimasu-folder2/za33d9.pdf）［2020 年 8 月 18 日参照］.

山形市（2017 b）「山形市みどりの基本計画 ～人と「みどり」の環が広がるまち 山形～」（file:///C:/Users/Hiroyuki%20%20Ito/Desktop/2021-01-14%20electronic%20data/100%20HSC%20aca%20res/000%20research%20activities/【submission%20plan】010%20miyuki%20nakajima%20JSHRTR▲/02survey/山形市みどりの基本計画%20.pdf）［2021 年 1 月 26 日参照］.

山形市観光協会（n.d.）「鉄砲町・寿町」（http://www.kankou.yamagata.yamagata.jp/db/cgi-bin/search/search.cgi?panel=detail&d01=10558424392388&c=10）［2021 年 1 月 25 日参照］.

山形市教育委員会（2020）「2020　やまがたの教育」（https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kakuka/kyoiku/kyoikukanri/sogo/gazoufile/ykyoiku/6lgcfu.pdf）［2021 年 1 月 25 日参照］.

ヤマハミュージックコミュニケーションズ（2020）「中島みゆき オフィシャルサイト」（https://www.miyuki.jp/s/y10/?ima=0000）［2020 年 8 月 18 日参照］.

写真1 中島みゆきが通学していたと
推察される鉄砲町二丁目界隈①

写真2 中島みゆきが通学していたと
推察される鉄砲町二丁目界隈②

写真3 山形市立第六小学校

写真4 山形市立第六小学校校門

写真5 中島みゆきが通学していたと
推察される通学路①

写真6 中島みゆきが通学していたと
推察される通学路②

写真7 中島みゆきが通学していた
山形市立第六中学校

写真8 山形市立第六中学校より
千歳山を望む

（2024 年 1 月 19 日受理）